

ふぁみいゆだより

第32号

社会福祉法人瑞穂会
ふぁみいゆ行田
行田市大字下須戸75番地
TEL 048-559-4165
ふぁみいゆ東館
行田市大字下須戸65番地1
TEL 048-559-5561
令和3年12月発行
発行責任者 藤井尚子
<http://famille-gyoda.com/>



敬老会「賀寿を迎えた利用者様」

自然災害に備えた施設運営

ふぁみいゆ行田 施設長 藤井尚子

令和3年も間もなく暮れようとしています。

今年も昨年に続いて新型コロナに翻弄される年になりましたが、ワクチン接種が順調に普及し、10月には緊急事態宣言も解除に至りました。ふぁみいゆ行田においても、職員の感染対策への弛まぬ取り組みと、利用者様、家族様、地域の皆様のご協力を頂いて、無事に今日を迎えることが出来た僥倖に深く感謝申し上げます。敬老会や秋祭りなどの行事についても、ご家族や関係者の皆様に従前のようにご案内できる日も近いのではと期待しています。

感染対策と併行して、もう一つの脅威である自然災害対策に取り組んだ年でもありました。施設の位置する行田市下須戸区域は、利根川が決壊した際、0.5～3.0m未満まで水位が上昇することが想定されています。そのため、自然災害対策の一環として6月から10月にかけて、3回にわたり水害避難訓練を実施しました。一度浸水すると水が引くのに数日以上要すると言われていたため、BCP（事業継続計画）についても検討しました。避難後の人員確保と業務体制について、利用者様の食事や寝る場所の確保について、更に地域の要支援者の受入体制についても検討を加えました。今年度、市と県の予算を頂いて整備した止水板の取付け訓練も行いました。止水板は水害が低位に収まった場合、建物内への土砂の流入を防ぐことができるため、水が引いた後に早期の事業再開が可能となります。



玄関扉に設置した止水板

利用者様の安心できる暮らしを支えるために、自然災害対策は重要な課題と位置付けております。今後も、感染対策と自然災害対策を併せた総合的なBCP策定に向けて、継続的に深化させて参りたいと思います。



水害を想定した訓練



行田市で水害が発生した場合、その影響は甚大なものになると懸念されています。そこで、水害を想定した訓練を行いました。

利用者様全員の避難をスムーズに行うにはどうしたらよいかを考え、三段階を踏むことにしました。6月に利用者様の一割の規模、7月には半数の規模、そして緊急事態宣言が明けた10月に全員の避難訓練を行いました。

3度目の避難訓練の際は、ふぁみいゆ東館の利用者様25名、小規模多機能事業所の独居の利用者様9名、ふぁみいゆ行田1階の40名、ご自宅に帰れないショートステイ3名とデイサービス2名の利用者様を

ふぁみいゆ行田の2階に避難し、併せて、食料、介護用品、医薬品および寝具等を移動することにしました。

回を追うごとに課題が見え、また、何が必要なのかが明確になりました。食料などの大量の備蓄品をスムーズに運び出すためのキャスター付きストッカー、移送のための人員確保、利用者様および職員の簡易トイレの確保など。



訓練を通して、全ての職種が一致団結し、災害時の対策を考える貴重な経験を得ることが出来ました。これらの経験を次の訓練に生かすこと、災害時には生命を守ることを考え、取り組んでいきたいと思ひます。



備蓄品を載せたストッカー

生活相談室 小林雅世

ふぁみいゆ敬老会



行田市長 石井直彦様のご祝辞 (ビデオレター)

9月11日(土) 敬老会が行われました。今年度は新型コロナウイルスへの対策で、ご家族やご来賓等の参加はご遠慮頂き、賀寿の利用者様と職員のみでの開催となりました。ふぁみいゆ行田、東館合わせて18名の利用者様が賀寿のお祝いを受けられました。古希1名、傘寿1名、米寿5名、卒寿8名、白寿1名、100歳を超える上寿の方が5名もいらっしゃいました。

行田市長の石井直彦様、瑞穂会 小嶋素志理事長のビデオレターに続いて、賀寿の利用者様一人一人の写真と、ご家族の祝いのお言葉を紹介するスライドショー、施設長が一人一人に褒賞状を読み上げ手渡しさせて頂きました。



お昼には豪華な祝い膳に皆さま舌鼓を打たれていました。めでたく敬老の日を迎えられました事をお慶び申し上げます。



敬老会実行委員長 福地克弘

笑顔の花を咲かせよう ふぁみいゆ秋祭り2021



10月22日(金) 秋祭りを開催しました。今年は感染対策をとりながらの開催でした。昼食は「ラーメン屋台」が各ユニットを回り、目の前で湯切りのパフォーマンスをみて頂き、熱々のラーメンを召し上がっていただきました。

2階ホールでは射的ゲームや綿あめ、ホットケーキを楽しみました。射的では的に当たると「倒れた!」と利用者様の笑顔もたくさん見られました。

コロナ渦の中での開催だったため不安もありましたが、テーマに添った笑顔の花がたくさん咲かせられた秋まつりになったと思ひます。



秋祭り実行委員長 久保田 美和

二体の古代蓮の精



「清華」

ふぁみいゆ行田に「行田市蓮の大使」であり人形作家の木暮照子氏が制作された高さ64cmの木彫「清華」が仲間入りしました。

これまでふぁみいゆ行田の玄関ロビーで私たちを癒してくれていた「泥中花」はふぁみいゆ東館に移り、利用者様や来訪される方をお出迎えすることになりました。

「泥中花」が数千年後の眠りから覚め、泥の中から穢れのない姿で現れた蓮の蕾だとしたら、「清華」は美しく香り立つ満開の蓮花のようです。

『古代蓮千古の夢のよみがえり 孝男』

春になったら「古代蓮の精たち」をご鑑賞いただきたく存じます。



木暮照子様

フィリピンからようこそふぁみいゆへ!



モニカさん

ローレンさん

コロナ禍の影響で一年以上来日が遅れていたEPA介護福祉士候補者2名が9月25日、ふぁみいゆ行田に入職しました。

モニカさんは看護師資格をもち、フィリピンで10年のキャリアがあります。ローレンさんは大学の看護課程を卒業しています。二人とも明るくてホスピタリティにあふれています。これから日本で介護福祉士国家資格の取得を目指して頑張ります。

さくらユニット 柿狩り



ふぁみいゆの果樹園に柿がいっぱい実をつけました。「とりに行きたい」と利用者様からご希望がありましたので一緒に柿狩りを行いました。

柿を食べると「とても甘い」と喜んでくれました。「来年も一緒に柿狩りに行きたい」と約束してくれてとてもうれしかったです。

さくら ユニット 介護職員 ヴィ・トウイ・リン

さざんかユニット 日向でゆっくり



お日様のぬくもりが心地よい季節になったある日の昼下がり、皆でベランダに出てティータイムを楽しみました。

日差しを浴びると「とても気分がいいよ」と喜ばれました。ほかほか陽気に眠くなる方も…。良い気分転換になりました。

さざんかユニット 介護職員 井上翔子

ゆり・りんどうユニット 運動会

始めは出来るかどうか心配もありましたが、いざ始めると皆さん元気に楽しく精一杯体を動かして運動会をすることができました。本気になって車椅子パン食い競争をされる利用者様の姿を見て嬉しくなりました。



ゆり・りんどうユニット 介護職員

ゴンデマーロ・アントネット・ミゲル

感染対策研修



10月8日、熊谷総合病院感染管理認定看護師の棚澤智行講師をお招きして、感染症対策について研修会を行いました。新型コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザウイルスの感染の対策を学びました。恒例の手洗いチェックでは意外なほど汚れが落ちていないことを知って驚く新人職員も…。これからも利用者様の健康管理に努めてまいります。 医務室 平社伊津代

まんさくユニット 万葉の木飾り付け



まんさくユニットの入り口に「万葉の木」があります。段ボールで作った等身大の幹に季節ごとに飾りつけをして、季節の移ろいをユニットで楽しんでいきます。

「今度は何にしましょうか?」と利用者様と相談しながら飾りつけをします。10月はハロウィーン、11月はクリスマス仕様にドレスアップしました。

まんさくユニットユニットリーダー 松本聡子

🍀 コロナ禍の東館 ～利用者様・地域住民の暮らしを支援～

ふぁみいゆ東館 館長 野口清美



地域密着型施設の東館は「地域に開かれた施設」「地域包括ケアシステムの構築」等、地域と密接な関係作りが求められております。そこで、2年前の「台風19号」を教訓に、行田市社協のお力を借りて、下須戸地区の「支え合いマップ/防災Ver.」を、地域の自治会長様を中心に、住民の方々と共に作成を始めました。

「災害時の助け合い」が「日常のつながり」になることで、1人暮らしでも、認知症を患っても、住み慣れた地域で自分らしく暮らせる、そんな地域になって欲しいと願い、地域と共に進めて参りたいと思います。

また、2年越しになりましたが、埼玉県環境部より「第12回優良緑化計画認定施設」に認定されました。ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例に基づいて、緑地設計や維持管理状況などが模範となる評価を頂きました。花の好きな職員が休みの合間を利用して季節の花植えや手入れ、他の職員も草取りや小枝切り、夏の暑さ避けとして緑のカーテン作り等、緑が多い環境づくりを続けています。とてもありがたいです。一本の木、一輪の花、一粒の種を皆で植え続け、緑を維持する取り組みがコロナ禍にくじけない施設づくりにつながり、そして、独り暮らしの住まい一軒一軒を丁寧に災害時のネットワークで繋ぐ取り組みが地域福祉の実践につながると思っています。今後も「私達の東館」「私達の地域」と胸を張れる施設づくり、地域づくりを推進していきたいと思っております。



🍀 コロナ禍の食事介助と口腔ケア



感染症対策の観点から、利用者様の食事や口腔ケアの際にプラスチック手袋とフェイスシールドを着用しています。

マスクとフェイスシールドを併用することによりウイルスを含む飛沫が目・鼻・口に入ることを防ぐことが出来ていると思っております。

職員がフェイスシールドを使用することにより汗が出て顔がくもってしまっているのを見て、利用者様より「暑そうだね」「頑張ってるね」とあたたかい言葉をいただきました。

職員一同、利用者様の体調管理に努めながら、これからも笑顔あふれる日常を送っていただきたいと思っております。

東館介護職員 長島幸子

🍀 東館 夏祭り



8月17日、緊急事態宣言期間中ではありませんでしたが、ふぁみいゆ東館では元気な利用者様と職員で、コロナの勢いに負けない夏を過ごしました。

小東風と合同で、利用者様による「フライ屋台」を楽しみ、地域の方から大切に育てたスイカを頂きスイカ割りをしました。そして、全員参加の「長生きサンバ」を踊り、大いに盛り上がりました。来年の夏は、是非家族様もご招待できたらと思っております。

東館介護主任 持村由加里

🍀 秋祭り (ふぁみいゆフェスティバル)



10月22日、ようやく緊急事態宣言が解除となり、サロン協力員の皆様のご協力を頂きながら、ふぁみいゆフェスティバルを開催しました。

施設内でのイベントとなりましたが、輪投げやボーリング、職員による出し物ではストッキング相撲や体で風船割り等をご覧頂き、利用者様と一緒に、職員も涙が出る程笑わせて頂きました。

昼食には味が選べる「ラーメン屋台」で目の前で湯切りを見て頂いて、出来立てのラーメンを召し上がっていただきました。来年は家族様もご招待して、より盛大に行えるよう、一日も早いコロナ終息を願っております。東館介護職員 村越朝子

「家庭の味」～呉汁と混ぜご飯～

小東風の魅力の一つは「これが食べたいな」と誰かが言うと、直ぐに実行に移せることです。この秋、小東風で作った二つの家庭の味をご紹介します。



一つ目は、10月のある日の昼食の時、利用者様が「この前、久しぶりに呉汁を作って食べたよ」と一言。その言葉をきっかけに「随分、食べてないな～」「何を入れる?」「小さい大豆の方がいいよね」と目を輝かせ話しが盛り上がり「来週、皆と一緒に作ろう」と呉汁作り計画がスタートしました。



呉汁は私の母も良く作ってくれた懐かしいお料理です。当日、母が作っていた材料で調理が始まると「すり鉢で大豆をするのは俺の係だったから」と普段は何事にも参加しない利用者様が昔を思い出し、すりこ木を持ち、野菜を切っている女性陣の中に入り、生き生きとした表情をしていました。「南瓜は?」「うちは入れるよ」と会話が飛び交い、確認すると、この辺りの地域では南瓜を入れる家庭が多く、地域によって具材の違いがあるようです。利用者様と作った呉汁は、亡き母を思い出すあたたかい家庭の味でした。



二つ目は11月に入って間もなくの事、「みんなに混ぜご飯を作って食べさせてあげたいな～」と利用者様の何気ない一言。11月12日にみんなで混ぜご飯を作る事になりました。

前日に買い物にご一緒していただいた利用者様は、「人参、椎茸、竹輪、タケノコ…」と何度も口ずさみながら売り場を行来きし、入念に食材を選びました。前日から準備をし、当日は、ご自宅から割烹着姿で、お米まで持参してお越しになりました。

小東風中に混ぜご飯のいい香りが広がり、「どう?」と小東風みんなが集い、味見が始まりました。そこへ、「混ぜご飯には、紅生姜が合うから買って来てくれ!」と男性利用者様の声。早速職員がお使いに行行って買ってきました。紅生姜を添えた混ぜご飯は愛情たっぷりの家庭の味でした。

小東風 介護主任 島崎かね子



小東風は我が家



小東風の庭は、春にはチューリップやすいせんが咲き、夏にはキュウリやなす、ヒマワリが目に入ります。秋になり、東館の入り口にある柿が美味しそうに実りました。庭に出て、柿を見ながら「もう食べごろよね」「もぎって皆で食べよう」と話し、その場で今日のおやつが決まりました。



柿の皮を剥きながら「どれどれ、甘そうな色をしているね」「これはゴマが沢山あるから、きっと甘いよ」と皮を剥いて甘さ比べをする利用者様を見ていると、自宅でご友人と楽しく過ごされている一場面を見ている

ようです。お皿洗いや洗濯物も自宅で行うように手伝って下さいます。

そろそろレモンやみかんの実も色づき始めました。「レモンの砂糖漬けなんてどうかしら～」とか、「今年もみかん狩りが楽しみだ」と笑い声が響いている我が家、小東風です。

小東風 介護職員 坂本泰代

88歳 自歯 26本 市報に掲載



常日頃より自歯を大切にされている田島五郎様(88歳)が、市報で紹介されました。

本来歯の数は28本。75歳以上の平均は16本くらいになるそうですから、88歳で自歯が26本というのはすばらしいことです。

食後の歯磨きはもちろんですが、月に一回、歯科でのメンテナンスを行いながら、小東風でカラオケや口腔体操など積極的に声を出したり体操に参加し、健康管理に努めています。今日も小東風に元気な美声を響かせ、皆を楽しませて下さっています。

小東風 ケアマネジャー 木村貴則



ふぁみいゆデイサービスの暮らし

感染対策しながら生活リハビリ実施 新型コロナウイルスもまだまだ油断は出来ませんが、このまま収束に向かってくれたらと願う毎日です。デイサービスでも沢山の行事が中止になっておりますが、中でも感染対策を行いながら生活リハビリを中心に楽しんで頂いております。入浴動作、掃除動作、口腔体操、ゲームなど、また、手指のリハビリを兼ねて折り紙を使った制作にも取り組んでおります。新規利用者様も増え、今まで以上に明るく楽しいデイサービスになっております。 **デイサービス介護リーダー 荒木留美子**



夏祭り・敬老会



8月に夏祭り、9月に敬老会を行いました。夏祭りでは金魚つりや輪投げゲームを行い、かき氷を召し上げて頂きました。男性職員もフラダンスの衣装に着替え、利用者様と一緒に記念写真を撮りました。敬老会では古希から上寿までの賀寿者 16 名の方のお祝いをしました。最高齢は 103 歳です。皆様いつまでもお元気でお過ごしください。

マッサージ施術



指圧師
久保田先生

デイサービスでは 2 人の先生が交代で毎日マッサージの施術を行っております。今回は指圧師の久保田靖孝先生の紹介をします。先生は 11 年間という長きに渡り施術を行っております。利用者様からの信頼も厚く、施術を楽しみにしている方が多くいらっしゃいます。利用者様が日々健やかに生活出来るようニーズに応えられる施術を心掛けているとお話がありました。



地域包括支援センター

ご近所型介護予防事業 (100 歳体操) に向けて



新型コロナの影響で、延期になっていた 100 歳体操が始まります。モデルグループとして 14 名が参加し、「柿の実火よう会」と名づけました。毎週火曜日にふぁみいゆ東館で行います。

おもりを使って負荷をかける体操は、地味に筋肉に効きますが、年齢に関係なくできる体操です。市や POST 行田の指導を受け、今後は自主グループとして活動し、リーダーとなって地域に広めていただけたらと思っています。

地域包括支援センター管理者 小沢めぐみ

ふぁみいゆケアプランセンター



昨今、介護認定を受ける方が増えている一方、ケアマネジャーの受験者数は減少傾向にあるといわれます。当事業所では、常勤のケアマネジャー 6 名の体制を確保し、毎週行われる会議や研修を通して質の向上に努めています。ご依頼は基本的にお断りせず、可能な限り利用者様の相談を受けていくことを目標とし、日々精進しております。そのため、各々が基準の 35 名を超えて担当するケアマネジャーがほとんどとなっています。今後もますます高齢化が進んでいく世の中ですが、地域の利用者様の生活を支えられるよう、ケアマネジャー一人ひとりが最高のパフォーマンスを発揮できる体制を整えたいと考えています。 **ケアプランセンター管理者 河野真也**

ふぁみいゆ訪問介護

訪問介護で暮らしを豊かに 訪問介護ではケアマネジャーが作成した介護(予防)サービス計画書(ケアプラン)の内容に沿って具体的なサービス内容等を記載した訪問介護計画書に基づき、介護保険法が定めるサービス提供をいたします。

身体介護で出来ること(例)

起床・就寝介助、排泄介助(オムツ交換・トイレ介助)、整容、食事・水分介助、見守り、脱衣・更衣介助、清拭・入浴介助・シャワー浴、体位交換、自立支援の為にを行う家事等の見守り。

生活支援で出来ること(例)

調理、洗濯、ベッドメイキング、掃除・ゴミ出し、買い物代行、衣類の整理、薬の受け取り ※ご利用者様分の提供となります。

自費になりますが支援可能(例)

大掃除、引っ越し準備、換気扇の掃除、使用していない二階の掃除、片づけ、来客用の買い物、お歳暮などの買い物、草木の水やり、草取り、ペットのお世話等。



お問合せ
ふぁみいゆ訪問介護
048-559-4160

ふあみいゆ文芸

俳句



コナ去れ世界が平和になりますように

鷲巣わか

重ね着を袖にみせての風呂あがり

井佐友勝

ゴウヤの葉茶色とみどり花に見え

木村絹代

月あかり窓ごしすすき輝けり

鈴木よ志江

秋の空穂の香の海を舞うとんぼ

こぼとん

満月を指でつまんで笑う吾子

平社伊津代

季節連れて山を降りくる秋苗

松井隆

時雨去り色の深まる興福寺

松井美枝子

残照に映ゆる浅間や冬木立

柴崎泰治

彼岸花重なりて咲く無縁塚

小嶋悦雄

草刈りの足元照らす彼岸花

篠崎則子

散歩道柿が落ちゆく苗空

長島幸子

通学路秋を感じる登下校

井上翔子

夕闇や地上の光月たかく

齊藤輝子

青い空紅葉を見上げ歩く道

西野正江

庭に出てゆずの香りで季節知る

最明治稔



何気ない花で見事に玄関花

住川八重美

柿の実が施設に届いた娘から

小河原さき

朝風呂に温められし身と心

小倉和子



澤田郁様 句集発刊



ふあみいゆご利用の
澤田郁様が、令和
三年三月句集「花
あかり」を発刊され
ました。

サークル活動で参加されていた「忍
沼会」の会報誌に発表した作品
と纏められたものです。

益々作句欲に燃えていらっしやる
澤田様です。

庭隅の贅なる石露の花明かり

振りあげし辛夷のゆるむ暖かさ

年の瀬も急ぐこと無し余生かな

短歌



野径ゆくデイサービスの広野には

実る稲穂の美しき色牙ゆ

関口千代子

花器の中柿一枝と花々も

出合いのパズルふあみいゆにて

中里えり子

夕焼けの雲をめでつつふあみいゆの

薄暮の道を一巡りせり

S.K

故郷へ新米買いに行く

車窓山川田畑我にやさしく

杉山嘉子

園児らに「はらごお虫」読み聞かせ

ページめくれば大合唱に

杉田すみ

古利根の穂ススキ揺れる散歩道

歩合わせくれるはいつも君かな

藤井尚子

誉められてイイ気になったり叱られて

素直に謝るナビと道連れ

小嶋敏子

子どもランチ会 ～ボランティアさんの思い～ サロン柿の木 運営委員長 杉田すみ



サロン柿の木では、平成30年8月からボランティアさんによって「子どもランチ会」が実施されています。目的は「子どもの楽しい居場所づくり」にあります。

1. 子どもと家族、子ども同士、大人同士のコミュニケーションを深め、地域、世代を超えた交流を図る。特に子どもを中心に置き、家族と過ごす楽しさと満足感を得られるようにする。
2. 子どもたちに食べる喜び、料理を作る喜び、食材の扱い方、栄養の大切さを知る食育の機会とする。

こうしたことを目途に毎回楽しく繰り返されてきました。ところが令和2年7月頃から新型コロナウイルスの流行により様々な活動が休止になってしまいました。そのためご家族やお子さんは室内に入らず、ボランティアさんが作った食事を持ち帰っていただくことに変更しました。

ボランティアさんは、2回のワクチン接種を終え、毎週PCR検査を受け、万全の態勢で料理に臨んでいます。月1回ですが、お弁当を持ち帰るお子さんの笑顔に会える貴重なひと時になっています。



レトルトカレーのご寄贈
スーパーマーケット「ヤオコー」様より埼玉県少子対策課を通して、レトルトカレーのご寄付がありました。誠にありがとうございました。

子どもランチ会にご参加のお子さんにお配りしました。



子どもランチ会 ご家族の声

- ・手作りのお弁当で栄養も考えてあって美味しいです。
- ・お弁当を食べながら子どもと会話が弾みます。
- ・ピクニック気分で公園で頂くことも。
- ・1か月に一度お弁当を頂いてとても嬉しいです。



ご要望にお応えします

利用者様の「ひざ掛けが欲しい」「小座布団が欲しい」などのご要望に応じて何でも作ってしまうボランティアさん。

八十歳の総括



この度、小嶋敏子先生は「八十歳の総括」—おさな児とお年寄りとともに生きて—を上梓されました。

教育者であり社会福祉の専門家であったご両親を師として成長された先生は、今日までの足跡を短歌・自由詩・散文の中に纏められています。「八十歳の総括」は、渋沢栄一著「論語と算盤」の中にある“忠恕”—真心と思いやり—と通じる部分が多くあり、敏子先生の「人となり」がとてもわかりやすく表現されていると感じました。皆様には是非ともこの本をお読みいただきたくお勧めいたします。

サロン運営委員 松井美枝子



秋祭り 2021

長生きサンバをにぎやかに踊るボランティアさんと職員さん。

泥中花

人形作家 木暮照子先生作「泥中花」が本館から東館に移りました。世にも美しい可憐な表情をご鑑賞ください。



梅の枝切り ボランティアさん募集!



梅っ子農園の梅の木にカミキリムシが大発生しました。サロン協力員は、ボランティアの岡村様、松本様のご指導のもと、12月に一斉に枝切りを行う予定です。

- 期日 12月13日(月) 9:00~15:00
- 予備日 12月15日(水) 同時刻

梅の木のお手入れにご協力いただける方、下記へご連絡ください。よろしくお願いいたします。

お申し込み
080-5404-4165 (小嶋)

ふぁみいゆだより 編集後記

コロナ禍の中でしたが、利用者様が笑顔で過ごせる様に職員が一人丸となって工夫をして行事を行い、心をこめて暮らしを支援しました。ふぁみいゆ32号はそんなスタッフの気持ちが沢山詰まっています。お手に取っていただけたら嬉しいです。 地域活動委員長 井上翔子

